日本農業新聞　令和３年６月22日掲載

農業技術プリズム

イチゴ「ゆめのか」高設栽培

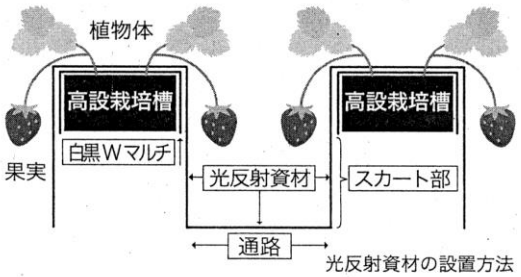
1、2月の出荷減は光反射シートで対策

冬場に日照量が少ない北部九州のイチゴ栽培では、光環境の改善技術が必要です。「ゆめのか」では第2腋花房（えきかぼう）の収穫開始が遅れ、1、2月に出荷量が減少する収穫の中休みが課題となっています。そこで、2月までの収量増加を目的に、長崎県型高設栽培システムにおける光反射資材の効果について検討しました。

その結果、10月中旬から高設栽培槽と通路部に光反射シートを設置すると、従来の白黒マルチだけに比べ2月までの総収量と商品果収量が10％程度増加しました。また、光反射シートの設置で商品果実が大きくなり、2月までの大玉果率が高くなりました。時期別の収量を基に、販売額から光反射資材費を引いた金額を試算すると、白黒マルチだけの場合と比較し、10㌃当たり45万8000円増加しました。

長崎県型高設栽培システムに光反射資材を設置することで収量が増加し、所得の向上が期待できます。

（長崎県農林技術開発センター野菜研究室主任研究員　芋川あゆみ）



光反射資材の設置方法